
培養兵器

砂鉄黒餅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

培養兵器

【Nコード】

N7792J

【作者名】

砂鉄黒餅

【あらすじ】

培養された悲しい兵器と、怪物として生まれた人間の御話。

（前書き）

この小説は作者、砂鉄黒餅のオリジナルです。
転職、コピーはご遠慮願います。

一部に残酷な描写や性的な描写も出てくると思います（たぶん）が、
生暖かい目で見守って下さると嬉しいです。

「此度の兵器は進んでおりますなあ」

脂ぎった肌をした中年の日本人男性が、その脂ぎった手で、培養層のガラスを叩く。

「ええ、我々の持てる全ての技術を駆使し、創り上げた兵器、言うなれば芸術と呼べるものですからね」

ひよろりと長い背のロシア人研究者が白衣を軽くはたきながら言う。
日本人が見つめている培養層のガラス。
その中には、

少女がいた。

「しかし・・・兵器は何で出来ているのかね？」

「人間の身体の構造をしておりますが、兵器の大部分は、16年前逃げ出したギ鬼で構成されています」

「あのギ鬼の、かね？」

「ええ、本当に良く出来たものです。兵器は皮膚に到らず、細胞、臓器、全てが再生可能な身体です。オリジナルのギ鬼は、脳や心臓

などを失えば死に至る普通のモノでしたが、これは違います」

「と、言つと？」

「首が切れても、頭蓋骨が割れても、脳が抉り出されても、心臓を失つても、あらゆる手段を使つても、兵器は死にません」

「ほう……、しかし、それ相應の痛みや苦しみはあるのだろうか？」

「一応。しかし、そこは兵器ですから」

「そうか……しかし、よく出来ているな」

日本人は再びガラスの中の少女を見つめる。
容姿から見ると、歳は10歳前後だろうか。髪は乳白色だったが、培養液に染まって翠となっていた。
四肢は陶器のように白く、細く、繊細に出来ており、触れたら壊れそうな人形のようなだった。

「で、兵器の最初の任務は何かね？」

「壱鬼を、この研究所に連れ戻すことです」

「それは大変な仕事だな。可哀想に」

日本人は、ガラスをコツコツと叩き、部屋を後にした。

ロシア人の研究者は、ただただ不快な笑みを顔に貼り付けているだ

け
だ
っ
た。

(後書き)

紅) えー、とうとう始まりましたー。

猫) どうも、猫鬼です。

紅) 紅禍ですー。

猫) 二人で一つとして扱ってもらえたら光栄だったりして(笑
えー、この御話は、壱鬼という怪物として生まれちゃった男の子を
元にして作られた少女の容姿カタチをした生体兵器の御話です。

紅) 作者がエグいのとか好きなのでそのうちそんな描写を入れたい
と思いますー。

猫) とにかく、これからよろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7792j/>

培養兵器

2011年1月20日00時16分発行